

東浦町教育委員会との話し合い

東浦町教委：恒川 教育長＝長 田川指導主事＝主
知 教 労：岡崎書記長・古川 登・池田 博＝組

1. 勤務時間・労働条件について

組：ある中学校では、80時間越えが70%もある。昨年度もきちんと指導をしてもらいたとお願ひした。平成31年度は80時間越えを0%にするという県プランの目標に向け、どのような取り組みをするのか、目標への進捗状況はどうか。

長：難しい問題だ。タイムカードは、本当のデータがとれていると思う。業務を減らすのは検討しないといけなひ。教委の行事を少しずつ減らしてきているつもり。すべての行事の見直しをかけている途中。

組：東浦中の「働き方改革プロジェクト」の実態は。

主：シーフォースに載せているが、東浦中で業務の洗い出しをしている。今後、そこからどうしていくかが議論になる。年内に具体策を学校の中で実践していこうというところ。月に1回授業後に1時間、授業が早めに終われる日に行っている。

組：長時間労働の原因が、個人の責任になりかねないところがある。業務を減らしてこそ、多忙は解消される。議論の中で具体化できそうなものは、あるのか。

主：会議の短縮は積極的に行っている。教員評価を無くすことはできない、どう意味のあるものにしていくのか、話は進んでいる。どれもやりようによっては可能だ。実践はこれから。

組：「プロジェクト」では部活動の話は出ていないようだが。

主：話題にはなっている。町としてガイドラインを出している。きちんと守っていけばという話になっている。プロジェクトの後半戦で部活動の話し合いもする。

組：勤務の割り振り変更を適切に行い、記録簿をきちんと整備するようにしてほしい。割り振り変更をする人としなひ人の差が大きい。職員会を割り振る人とそうでない人がいる。

主：教頭会でも、きちんとやるように話をしている。割り振りの対象項目については各校に任せてある。効率的に先生たちが取りやすくなるように指導している。自由に取れることが理想。折を見て話す。

組：日直が戸締り点検するのは、割り振り対象項目か。

長：そう。こちらから言ったことはないが、昨年この場で話した。

組：タイムカードは、記録がきちんととれて良い。県教委が2月に出した文書には、やむをえず休憩が取れない場合は勤務時間として計上するようにとある。タイムカードは一律8時間30分引かれている。集計用紙が悪く言えば虚偽の記載になる。問題ではないか。

主：在校時間をとって目安にするもの。これからどうしていくか、検討したい。

組：職場体験をやらなければいけないわけではないと教委は昨年も回答している。変わりはないか。自衛隊の体験内容について、何か把握していることはないか。

主：変わりはない。自衛隊のことは聞いてない。

組：職場体験学習を休業中に行う場合は、課業日として扱い、代休を設けるべきだ。

主：何とも言えない。

組：読書感想文の選考会や図書館部会で、「読書感想文は大変だ」「意味があるのか」との声がある。

組：教育振興会や教職員会の出版物の縮小・廃止を。数学のリープについて、教委は「その教科の判断で買わないということもありうる。(2015年度)」と回答している。データ化すれば多忙化解消&経費削減にもなる。

長：時代の流れで考えていかないといけなひ。活用と探求で計算問題が減る方向、どこかで話す機会があれば話題にしたい。

主：数学リープはよく利用していた。紙媒体でなくても良いかもしれない。

組：学校訪問を簡素化。東浦町は指導案がA4一枚になって進んだ。しかし、2回研究授業をする学校もあ

る。多忙化解消に反する。町教委の指示か。教員の負担増はどうか。

主：町教委は言っていない。各学校の現職に口は出さない。

長：学校訪問の半日日程は考えていない。車座になって研究協議で授業についての考え、発表の方向性を伝えるのは大事なこと。子どもたちのための授業づくりを大切にしたい。年1回の学校訪問は続けていく。

組：教務主任が授業をしないのは、なぜか。

長：やってはいけないわけではない。自分が教務主任の時はやった。ものすごく大変だった。

長：A4になってポイントを見つけやすくなった。授業の組み立てもしっかり見つけられるようになり、的確に指導できるようになった。これからも続けていく。

組：過度な環境整備や諸帳簿も減らしたい。そろえるのが大変だ。

長：環境整備がやれていない等、学校訪問で今は言わなくなった。細かいところまでは見ない。

主：学校訪問のための環境整備は必要ない。日頃の環境整備で良い。常々書類をやっておけば慌てることはない。

組：標準定数法を順守してほしい。東浦中などの大規模校の実技教員は評価等大変だ。逆に小規模校の実技教員は、教科・学年を跨いだりして大変だ。

長：負担だとは思。人の手当にかかってくるので、難しい。

組：校務主任が本務でない環境整備で大変だ。校務が専科として授業をもてば、他の人の負担が減る。

主：環境整備のために今年からシルバーさんが2人で2チーム、各校を定期的に回っている。

長：学校を支援できる方法を考えていかなければいけない。環境整備員以外にも、どういう業務があるか考え、本来の教員としての仕事がしっかりできるようにしたいと思う。

2. 労働安全衛生法の適用について

組：学校単位で衛生委員会が行われていると思うが、講習会等で管理職の有資格者を増やしてほしい。

長：今のところ検討させてもらう。研修をして有資格者にやってもらうような形になるように考えていきたい。

組：タイムカードの記録をもとに衛生委員会で話題になってないのか。

長：80時間越えを減らす工夫など当然、衛生委員会で話し合っている。

主：衛生委員会と関係なく問題視しているので、プロジェクトでも在校時間一覧表を見ながらやっている。いろんなところで記録表を活用している。

3. 部活動の見直しについて

組：超過勤務の原因の大本は、部活動にあると思う。小学校の部活動をやめる。中学校の朝部活をなくすことはできないか。

長：朝部活の全面禁止は考えていないが、1年を通して日の出・日の入りの時刻も踏まえて教委として考えていきたい。

組：大会をやるかやらないかは、校長会で決められるなら廃止にできないか。

長：今すぐ廃止とは言えないが、多忙化解消、業務改善の絡みの中で部活動は勤務時間に大きなウエイトを占めているので校長会と話しながら進めていかなければと思っている。

4. 全国学力・学習状況調査について

組：「学力テストの結果を公表しない」に変わりはないか。

長：変わりはない。

組：練習と称して、集中的に学力テストの過去問や類似問題をさせることは、趣旨・目的に反すると文科省も言っている。教委の考えは。

長：もちろん、そのようなことがあれば、話をする。

組：貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。